

新国立競技場のシステム等関連整備に関する検討委員会（第2回）
議事概要

- 開催日時 平成28年8月29日（月）10:00～11:45
- 開催場所 日本スポーツ振興センター（JSC）本部事務所 A棟2階 特別会議室
- 出席者 山内委員長、清須美委員、上代委員、前田委員、間野委員

■議事概要

(1)新国立競技場のシステム等関連整備に関する検討委員会運営要領について

- ・前回、委員から『旧計画の新国立競技場整備においては、その検討過程の透明性について指摘されている。本委員会の検討については、基本的には対話型で進めることも考えてはどうか。』との趣旨のご発言をいただいた。
- ・事務局にて再度検討し、ホームページ内に「一般の方からのご意見」を受付できる仕組みを作り、委員のご意見に対応することとし、「運営要領（案）」は結果的に変更なしとした。
- ・計画の決定及び進捗のプロセスを透明化する観点から、JSCにて適宜公表しながら進めることとし、また、公平性、公正性の観点から守秘義務についても厳守することを確認し、検討委員会申し合わせとして決定した。

(2)新国立競技場の システム等関連整備の検討に当たっての基本的考え方について

- ・前回、本委員会での議論を踏まえ「(5) できる限りコストを抑制し、維持管理等を『十分考慮』としていたところを『最大限考慮』」に修正し、8月23日のJSC役員会において決定したことを報告した。

(3)新国立競技場の各システムの概要等について

- ・本体工事の整備の中で行っている各ワークショップ及び前回、委員からの意見を踏まえ、改めて実施した各競技団体へのヒアリング等の中でいただいた意見を取りまとめた（資料3）。競技団体は、基本的に必要な物は持ち込むということであったため、現在予定しているシステムの活用方法についても意見をうかがった。
- ・各システムの説明を行い（資料4）、意見をいただいた。

(主な意見)

○LAN

- ・今後の利活用を勘案すると、統合ネットワークを整備しておくべきものとする。

○Wi-Fi

- ・今後の利活用を勘案すると、高密度で整備しておくべきものとする。

○デジタルサイネージ

- ・取り付け位置によって視認性に違いが出てくることに配慮し、必要最小限の機能を

担保しつつ、緊急時に適切な表示が行えるよう使い勝手を十分検討する必要がある。

○リボンボード

- ・運営事業者がどのように使えるか、広告収入がスタジアム側に入るのか主催者側に入るのかといった点も関係してくる。

○監視カメラ

- ・陸上競技用のシステムとして活用できるかも含め、解像度をどの程度必要とするかによる。

○防犯・入退室管理装置

- ・事務局案で特段の意見はなかった。

○ゲート（チケット）

- ・年間の稼働日数とコストを勘案すると不要ではないか。
- ・日本らしい上手く機能する技術を活用していくべきであり、後に人件費に跳ね返ることがないように、かつ、オーバースペックとならないラインを見極めることが必要である。

○観客避難誘導システム

- ・出力するハードが様々あると同一のプログラムで表示できない可能性もあるため、ソフトの作りこみには注意が必要となるが、スタジアムとしては必要である。

○その他

- ・年中使用するわけではなく、イベント開催時にのみ使う設備としてはオーバースペックになりがちであるため、複合的な用途に使用できることも考慮すべきである。
- ・前提条件として、オリ・パラ後の運営の際に陸上は行うこととするのか。それ如何により、場合によってはオーバースペックとなってしまうのではないかと。
→現在、大会後の後利用については、文部科学副大臣を座長としたワーキングチームで検討をされており、現時点では未定との前提で検討いただきたい。
- ・入場時の手荷物検査は、ゲート外で行い、主催者の持込とするのか。
→基本的には主催者が行うこととする。
- ・例えば全体を一式として発注した場合、競争性が働かない可能性があるのではないかと。
→今後、専門のコンサル等を活用し、詳細を検討していきたい。
- ・今の段階では運営事業者も決まっていないため、後に改めて再検討する内容も出てくることもあり得る。
- ・現段階では各システムのレベル感での検討が良いのではないかと。
- ・検討の前提条件については今後追求される可能性も大きいため、きちんと整理しておく必要がある。
- ・例えば、10年～20年のライフサイクルコストを算出して比較するべきではないかと。
- ・「稼げるスタジアム」の視点も入れておくべきではないかと。

- ・システム等関連整備に相当程度の費用がかかることについて、どう判断するのか。
→全体のコストを意識して検討する必要があると考えている。
- ・ハードで揃えるのではなく、運用面（人件費）に転嫁されるものも出てくる可能性が

あり、どうまとめていくかは大変重要なポイントである。

(4) 新国立競技場の什器・備品の概要等について

- ・ 什器・備品の説明を行い（資料5）、特に論点となるホスピタリティの部分を中心に意見をいただいた。

（主な意見）

○ホスピタリティ

- ・ レガシー時を考えたときに、VIP 各人がこのエリアにどの程度滞在するのかを良く考えておく必要がある。ゆっくりと長時間いてほしい場には、ゆったりと座れるしっかりしたソファが必要であるし、そうではなく、例えば立食での利用が多いのであれば椅子は必要ない。
- ・ ホスピタリティエリア全体をおもてなしの空間として心地よく過ごせるインテリアをコーディネートする必要があるのではないか。
- ・ 実際は立食での利用が多くなるのではないかと思料され、着席で使用する際に必要なものはリースすることで良いのではないか。M I C E（国際会議、展示等）を行う際はリースが多く、そういったことを行う業者は存在する。
- ・ 家具類は動かせることができるようにするほうが使い勝手が良い。

○その他

- ・ 芝生養生用の機器類は芝生業者持込でよいのではないか。芝生の補光設備はどうなっているのか。
→旧国立競技場では業者持ち込みもあったが、ベーシックなものは所有していた。芝生の補光設備は本体工事に含まれている。
- ・ 陸上を大会後に行うかどうかによるところもあるのではないか。
→陸上用器具に関しては、競技場の公認を取る際に施設側で用意するルールとなっている。
- ・ 過去の事例だと、大規模な国際大会のために用意した備品等がその後使われていない例は多数ある。リースについても検討すべきである。

以上